

資本政策・株主還元

Q: 今回、追加還元を決定したが、中期経営計画の株主還元方針において示している追加還元のどの確認項目に該当したのか。

A: 今回の追加還元は、中期経営計画の株主還元方針でお示している確認項目のうち、「その他資本効率改善等が必要と判断した場合」に沿って検討を行った。結果として、直近の資本余力が中期経営計画で想定している水準を安定的に上回る見込みであり、追加還元を決定したものである。

Q: 今回の追加還元とは別に、2021 年度通期決算後には、修正連結利益の 50%にあたる基礎還元が行われるという理解でよいか。

A: ご認識の通りである。

Q: Palantir 社株式売却が追加還元の一因となったと思うが、Palantir 社との提携関係に変化はあるのか。

A: Palantir 社との協業は、共同投資案件なども含めて順調に進捗している。また、資本提携開始当初と比較しても、経営トップレベル、現場レベル双方で関係性は強化されている。

国内損保事業

Q: 国内自然災害予算(当年度発生)を 730 億円に引き下げたが、足もとの自然災害の発生状況を踏まえると、やや予算規模が大きいと見ている。どのような方針で予算を見直したのか。

A: 2021 年度中間期の国内自然災害(当年度発生)の発生保険金は、265 億円となった。通期予想(今回予想)では、下半期に、2020 年度に発生した規模の雪害影響を見込み、730 億円の国内自然災害予算(当年度発生)を織り込んだ。

海外保険事業

Q: 2021 年度通期予想(今回予想)において、Sompo インターナショナルの保険引受利益を下方修正した背景は。

A: 保険引受利益は今回予想において 100 百万ドルの下方修正を織り込んだが、米国ハリケーン・アイダや欧州洪水など海外自然災害影響によるものである。なお、自然災害影響や新型コロナ影響の影響を除いた、2021 年度通期の Sompo インターナショナルの損害率(除く農業保険)は、対前年では着実に改善する見込みである。また、修正利益についても、増収効果や社費の適切なコントロールもあり、対前年で増益できる見込みである。

Q: 2022 年のレート環境(世界的な保険料値上がり傾向)についてどう見ているか。

A: 直近のような急激なレートアップ環境からは一定落ち着く可能性が高いものの、引き続き全種目ベースではレートアップが継続すると見ている。

Q: Sompo インターナショナルのトップラインについて、グロス保険料は中期経営計画のターゲット水準に迫る一方で、正味保険料の成長率は相対的に低い予想となっている。中期経営計画では保有比率を引き上げる方針としていたが、見通しに変更はあるか。

A: Sompo インターナショナルでは、2020 年 12 月に米農業保険会社 Diversified 社を買収したこともあり、2021 年度のグロス保険料が大幅に増加した。一方、同社保有契約の多くを出再したことから、全社ベースでの保有比率は低下した。これらの特殊要因を除くと、レートアップの進展により保有契約の収益性向上などを背景に、保有を増やしており、保有比率は計画通り上昇している。

以上